

日 時：平成 2 2 年 1 2 月 4 日(日) 午後 1 時 3 0 分午後 3 時 3 0 分

場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室

出席者：木村委員長，大島委員，金子委員，中澤委員

(事務局) 井端事務局長，森下主幹，松本事務局員

## 1. 授業モデル作成に伴う問題点の確認

### ① グループ学習への期待

- ・大学教育における「グループ学習」の積極的導入が学びの様式として求められている。
- ・教養面と専門性を融合した教育が期待されておりグループ学習が有効と考えられる。

### ② I C T 活用に関する確認

- ・有効な I C T の活用法は，教場授業の質を高めることに役立つ。
- ・ I C T が考える力を疎外すること(情報機器による注意散漫)の無いように配慮しなければならない。
- ・学生はインターネットを介して各種の情報を獲得し，用いることは出来るが，その内容を理解していない例は多いと考えられるが，これは大学における授業デザインが完成していないことに由来していないか。これを補う案として授業モデルを考えたい。

### ③ 就職活動と学びの機会

- ・現状では学生は 3 年生の時から授業に優先して就職活動を行う状況にあり，大学の期待する学びの機会に影響をもたらしている。このため，大学卒業後も 3 年間は新規卒業生に対するのと同等に対応するよう企業側に求める動きがある。このことは大学生の学びの機会を保証することにつながると考えられる。

### ③ 私立大学情報教育協会が目指す授業モデルについて

- ・ 5 年後の授業のあり方をイメージして，理想的な授業のモデル案を提示する。

## 2. 人材育成に関する期待

### ① 学士力を身につけた卒業生を期待している。

- ・情報を収集し操作する方法は身につけているがそれら情報の内容を理解し把握する新入社員が少なく，また，組織内で議論に積極的に参加し，報告し合い，意見を統合し，一致に至るとい活動ができない，などの社員も増えており学士力の涵養が求められる。

### ② 大学教育・人材育成に関する産業界からの提案の可能性

産業界では，大学の教育デザインの現状に一因がありはしないか，という認識の下に，近い将来，大学における人材育成のあり方について何らかの提案を示すことが予想される。

### ③ 授業マネジメント能力

- ・大学教員にはより効果的な学士力の養成のために授業マネジメント能力が求められるようになると思われる。

### 3. 授業モデルの説明

次の3つの到達目標に関して、各担当者によりモデル案の説明が行われた。

- 到達目標 1-③ 授業モデル案の解説報告
- 到達目標 3-① 授業モデル案の解説報告
- 到達目標 2-① 授業モデル案の解説報告

次回開催日 2月15日(火) 13時30分から15時30分まで。

宿題：授業計画案をモデル例示(メモ)を参考に作り直すことが宿題とされた。